

がんから命を

守りましょう！



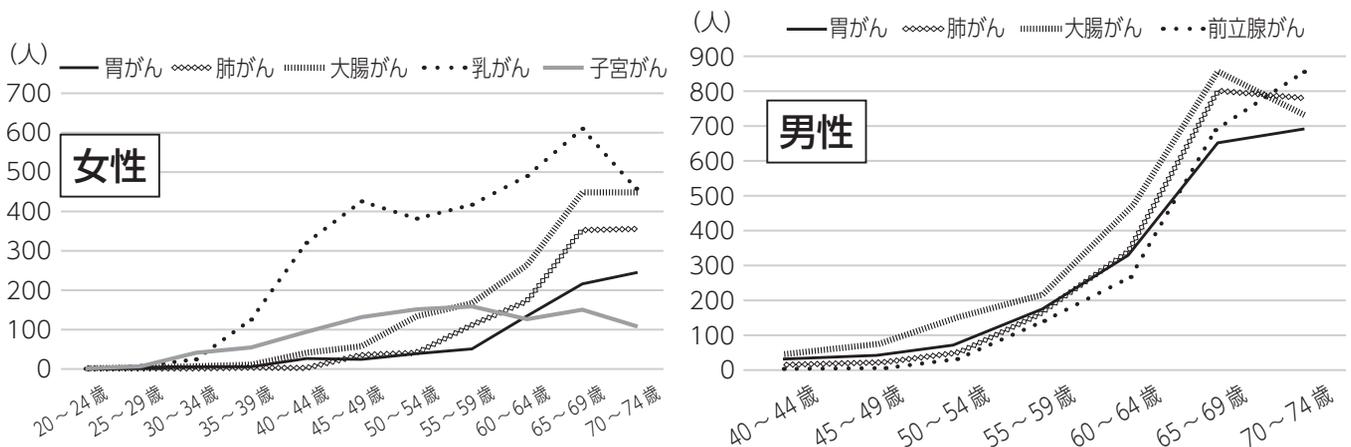
問ふれあいセンターTEL 52-2000

身近な病気 《がん》

厚生労働省の統計によると、日本人の約2人に1人ががんに罹患し、約3人に1人ががんで死亡しています。砂川市でもがんは死亡原因の第1位を占め、全体の3割を占めています。今やがんは誰にでも起こりうる身近な病気なのです。

北海道におけるがんの部位別・年齢階級別罹患数(図1)を見ると、男性は40〜50歳代ごろから年齢が上がるごとに罹患数が増えています。

女性についても胃がん、肺がん、大腸がんにおいては、男性と同じく年齢とともに罹患数が増加しています。しかし、乳がんと子宮がんは少し異なり、30歳代の比較的若い年代から罹患数が増えています。さらに、乳がんについては、他のがんと比較すると、30代後半〜60歳代までの罹患数が圧倒的に多くなっています。厚生労働省の統計によると、乳がん、子宮がんの発生率は近年増加傾向にあり、特に子宮頸がんの発生率は、20〜30歳では昭和60年〜平成17年の20年間でおよそ3倍に増えています。



【図1】北海道におけるがんの部位別・年齢階級別罹患数(平成29年) 出典：厚生労働省 全国がん登録

がん検診の受け方

①ふれあいセンターで受ける（集団検診）

胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの各種で検診日が決まっています。日時については広報すながわ 4 月 1 日号折込の「砂川市各種健（検）診等の日程表」でご確認ください。

②個別に病院で受ける（個別検診）

◆市立病院で受ける

→乳がん、子宮頸がん、大腸がん検診を通年で受けることができます。受診希望日の2週間前までにふれあいセンターに申し込みください。

◆市内の個人病院で受ける（国保加入者のみ）

→大腸がん・前立腺がん検診を通年で受けることができます。受診希望の医療機関に直接申し込みください。

③無料クーポン券を使って受ける

下記の対象年齢の方に乳がん検診または子宮頸がん検診の無料クーポン券を郵送しています。受診の方法については同封の案内をご確認ください。

【無料クーポン券対象年齢】※年齢は令和4年3月31日現在。

- ・子宮頸がん検診：21歳、26歳、31歳、36歳、41歳
- ・乳がん検診：41歳、46歳、51歳、56歳、61歳

早期発見・早期治療が大切

がんは以前まで「死」をイメージする恐ろしい病気でしたが、医療の進歩により現在は早期発見すれば治る可能性の高い病気になっています。0期あるいはI期といった初期の段階でがんが発見され、早期に治療ができれば、「5年生存率」（がんと診断されてから5年後に生存している患者の割合）は、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がんで95%以上、肺がん80%以上となり、治る可能性が高まります。また、早期であれば治療期間が一般的に短くなり、身体的負担や経済的負担も軽く済みます。

しかし、初期のうちは自覚症状がほとんどなく、症状を自覚したときにはすでにがんが進行してしまっているという場合も多い状況です。そのため、基準の年齢に達したら定期的に検診を受診し、早期発見・早期治療につなげることが大切です。

がん検診、受けていますか？

国の「がん対策推進基本計画」ではがん検診受診率の目標値を50%と定めています。市で行っているがん検診の受診率はがん検診対象者の1割程度であり、最も受診

率の高い乳がん検診でも2割程度に留まっています（図2）。

がんは早期発見により克服できる病気です。がん検診はがんを早期に発見し、早期に治療を行うことにより、がんで亡くなる方を一人でも減らすことを目的としています。自覚症状のないときから1年に1度、定期的ながん検診を受けることが早期発見につながります。ご自身の安心のためだけでなく、ご家族や周りの方々のためにも、がん検診を受けましょう。



【図2】市のがん検診受診率（令和元年度）
（ふれあいセンター調べ）

